連載 これからの情報処理学会

連載開始にあたって

川合 慧
東京大学
情報処理学会会誌編集長

本会誌「情報処理」も創刊500号を迎えることとなった．

第1号は1960年7月に発行され，中曽根康弘，和達清夫，M. V. Wilkesといった方々の祝辞に始まり，当時のコンピュータや論理回路に関する論文で始まっている．初年度の発行部数は820と記録されている．最初はほぼ隔月刊であったが，1970年の10周年から毎月刊となり，15年後には10,000部を超え，今日に至っている．最初のころは発足間もない学会のほぼ唯一の求心力となるべく，各種の論文，技術報告，会議報告，チュートリアルなどが掲載されている．8年前に，それまでの研究報告書スタイルから商業誌風に装丁を大幅に変更し，「魅力的な情報処理」を目指してデザインや編集にも工夫が凝らされるようになった．

今回500号の発行を迎えるにあたって，学会誌として学会全体を視野に入れた記念の企画を検討した．その結果として，現在当学会を支えていただいている役員の方々に，「これからの情報処理学会」と題した連載記事をお願いすることとなった．先頭はもちろん現会長の安西先生，最終回は情報処理学会らしく512号となる予定である．

情報処理学会の会誌は，現在の発行部数（約23,000部）から考えても，会員相互の情報交換や各自の情報収集の場として大きな役割を果たしているはずである．学会外の一般社会や学生を含むこれからの世代へ与える影響も少なくないと思われる．このような状況に鑑み，創刊500～512号という節目にあたって，会員ならびに社会に対して，実のある，しっかりとしたメッセージを発する絶好の機会と考えた次第である．この連載を通じて，長年の会員からフレッシュな方々までの諸氏が，情報処理学会との付き合い方をより深く考え，学会のあり方やその価値についての認識を深めたり新たにしたりしていただくことができれば幸いである．

（平成18年9月15日）

